

# 仙台ひまわり訪問看護ステーション

症 例 概 要    ご利用者：70歳代女性    要介護5

利用期間：令和6年11月～令和7年5月現在

病名：若年性アルツハイマー型認知症    両踵部褥瘡    両下肢浮腫

経過：令和6年9月蜂窩織炎での入院をきっかけに、手引き歩行からADL全介助まで低下。認知症による重度の意思疎通困難があり、表情変化も乏しく活気がない状態だった。傾眠が強く閉眼している時間も長いため、入院中に行なったりハビリでADLの拡大はみられなかった。ご家族は施設入所は望まず、車椅子で過ごせるようトイレ・浴室・寝室を住宅改修。11月に訪問看護(Ns、PT、OT、ST)介入開始。ご家族は寝たきりにさせたくないという強い思いがあり、ひまわり一丸となり介入したことにより、入院前の生活に近づくことができた症例。

## 内 容

入院前は手引き歩行可能、トイレでリハビリパンツや尿パッドを交換し、ご家族の介助でシャワー浴もできていた。入院中に体動困難となりフォーレ挿入、移動はストレッチャー、自動運動なく、両踵部に褥瘡形成。覚醒状態は不良で、リハビリが進まなかった。この状態をみてご家族は、車椅子生活を想定し住宅改修を行なった。自宅退院となったが、体力・筋力低下は著明で、起き上がりなどの動作全般に重度の介助を要した。また協力動作は得られず肥満体型であることから、移乗と座り直しに2人介助が必須な状態だった。そのような状況でも、ご家族は「デイサービスに行けるようになってほしい。」という強い思いがあった。

看護師は、褥瘡を連日処置。両下肢の浮腫が強く、両下肢のマッサージを実施。PT、OTは体力・筋力向上のため、起き上がり～座位保持、立ち上がり・移乗動作訓練を実施。車椅子も選定。STは覚醒・レスポンス向上のため、機能的口腔ケアや孫の写真を見せるといった回想法など、五感に働きかけるアプローチを実施。ご家族には、褥瘡の処置と浮腫みケア、車椅子への移乗方法、口腔ケアや回想法について指導を行なった。

ご家族はこれらのケアを毎日献身的に続けた甲斐があり、両踵部の褥瘡は治癒。両下肢の浮腫は改善がみられた。回想法も孫の写真を見ると目を見開く、笑うといった感情の表出や発声がみられるようになった。そして徐々に覚醒状態の良い日が増えていき、リハビリが進むようになった。座位保持時間も延長し、立ち上がり際には自力で踏ん張れるようになり、夫1人でも移乗が可能となった。そしてご家族介助のもとシャワー浴もできるようになった。

介入当初から、手引き歩行でトイレに行くことも目標の1つとしていたため、歩行訓練を開始。ご家族に

て毎日継続したことにより、トイレまで手引き歩行で移動できるようになった。そして4月からはデイサービスが再開となり、元気に通うことができている。今後は入院前のように、リハビリパンツでの生活に戻るとい  
う目標に向かっている。これからもご家族ともに笑顔でキラキラした時間が増えるよう、ひまわり一丸となっ  
て支援を続けていく。

看護師：褥瘡改善

PT・OT：座位保持訓練、立ち上がり訓練、手引き歩行訓練を実施。ご家族への介助方法指導

ST：機能的口腔ケアに加え、孫の写真を見せるなどの回想法や五感に働きかけるようアプローチを実  
施。家族指導も実施。